

救急集中治療科にて経口人工呼吸器を装着した治療を受ける  
患者さんまたはご家族の方へ  
(臨床研究に関する説明)

広島大学病院障害者歯科では、経口人工呼吸器を装着して治療している患者さんを対象に、口腔ケア時における飛沫汚染の研究を実施しております。この研究は患者さんに施される通常の診療範囲で行われるものであり、実施することで患者さんへ新たに加えられる負担は一切ありません。患者さんのプライバシーの保護については法令を遵守して研究を行います。

以下、研究の概要を記載しておりますので、本研究の研究対象となることを望まれない患者さん及びご家族は、その旨、下記問い合わせ先までご連絡をお願いします。調査の対象となることに同意をされない場合でも不利益はありません。

**【研究課題名】** 介助磨き時における介助者への血液や唾液汚染の危険性

**【研究の目的】** 気管挿管をしている方へ口腔ケアを行う際、介助磨きによっておこる飛沫汚染を明らかとすることを目的としています。介助磨き前後に介助者の身体の各部位の血液、唾液の飛沫量を ATP・AMP 値で評価します。介助磨きによる汚染状態、汚染部位を明らかにすることにより、介助磨きを行う際の飛沫汚染対策の策定につなげます。

**【対象となる方】** 倫理委員会承認後から 2025 年 3 月 31 日までに治療のために人工呼吸器を装着された患者さんのうち、口腔ケアを依頼され、20 本以上の歯を有する方。

**【研究期間】** 2022 年 2 月 3 日～2027 年 3 月 31 日

**【使用する情報】** カルテ情報 (生年月、歯式)、ATP・AMP 値

**【研究の方法】** 介助磨きを行う前にフェイスシールド、袖付きガウン、グローブを装着した状態でルシパック Pen®を使用して介助磨きを行う担当者の右腕・左腕・胸部・フェイスシールドをそれぞれ 10cm×10 cm の範囲を 10 往復ふき取り、ATP・AMP 値を測定します。その後、吸引器を使用しながら歯ブラシ・歯間ブラシを使用し、口腔内のプラークを除去し、舌の上のケアを行い、スポンジブラシで粘膜をふき取ります。この一連の口腔ケア終了後、再度ルシパック Pen®を使用して再度同部位の ATP・AMP 値の測定を行います。また、介助磨きの際は手用歯ブラシ、音波歯ブラシをランダムで選定して使用します。

**【個人情報の保護】** 利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人

(研究 2 : オプトアウト)

情報は削除して使用いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

**【当院研究責任者および試料・情報の管理責任者】**

広島大学病院 障害者歯科 教授 岡田 芳幸

**【問い合わせ先】** 広島大学病院 診療支援部 歯科部門 徳井 文 (研究担当者)

〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3 電話 082-257-5788